

令和元年（2019年）9月20日
J R 東日本エネルギー開発株式会社宛て

本事業は、日高管内えりも町の約7,545haを事業実施想定区域として、全高約180m、ローター直径約136mに及ぶ最大100基の風車による出力400,000から500,000kWの風力発電所を設置する計画である。

事業実施想定区域の東側及び南側は日高山脈襟裳国定公園に隣接し、同区域内及びその周辺には重要野鳥生息地（IBA）や保安林、自然度の高い植生といった重要な自然環境のまとまりの場が存在しており、シマフクロウやタンチョウなどの希少鳥類の生息情報があるほか、住居や学校等が存在している。また、事業実施想定区域の東側から南側にかけては他事業者により計画中の風力発電事業と区域が重複している。

以上を踏まえ、本事業による環境影響を回避又は十分に低減するため、事業者は次の事項に的確に対応すること。

1 総括的事項

- (1) 今後の対象事業実施区域の設定、事業の規模、風車の配置及び構造・機種を検討に当たっては、2の個別的事項の内容を十分に踏まえ、複数の専門家等から助言を得るなどしながら、各環境要素に係る環境影響について適切な方法により調査を行い、科学的知見に基づいて予測及び評価を実施し、その結果を事業計画に反映させること。
なお、その過程において、重大な環境影響を回避又は十分に低減できない場合若しくは回避又は低減できることを裏付ける科学的根拠を示すことができない場合は、事業規模の縮小など事業計画の見直しを行うことにより、確実に環境影響を回避又は低減すること。
- (2) 本配慮書では、事業実施想定区域の設定に当たり、検討対象エリアを設定した上で風況や道路整備状況による絞込みを行った後、法令等の制約を受ける場所及び環境保全上留意が必要な場所を確認し、その一部を区域から除外したとしている。しかし、その検討過程の説明が不十分で分かりにくいものとなっていることから、方法書ではその検討過程について分かりやすく記載すること。
- (3) 事業実施想定区域の東側から南側にかけては、他事業者が先行して環境影響評価手続中の風力発電事業と区域が重複していることから、当該事業者と十分協議を行った上で風車の配置などの事業計画を検討すること。また、当該事業者から必要な情報を入手した上で、本事業との累積的影響について適切に調査、予測及び評価を実施すること。
- (4) 今後の手続きに当たっては、住民等への積極的な情報提供や説明などにより、相互理解の促進に努めること。
- (5) インターネットによる環境影響評価図書の公表に当たっては、広く環境の保全の観点からの意見を求められるよう、印刷可能な状態にすることや、環境影響評価図書の内容の継続性を勘案し、法令に基づく縦覧期間終了後も継続して公表しておくことなどにより、利便性の向上に努めること。

2 個別的事項

(1) 騒音、超低周波音及び風車の影

事業実施想定区域及びその周辺には住居や学校等が存在しており、これらに対する騒音及び超低周波音、風車の影による重大な環境影響が生じるおそれがある。このため、最新の知見や日影図の情報等に基づいた適切な方法により調査、予測及び評価を実施し、風車を住居等から離隔することなどの措置を講じ、影響を回避又は十分に低減すること。

(2) 水質

本配慮書では工事中の水の濁りについては計画段階配慮事項として選定していないが、事業実施想定区域内には、さけ・ます増殖事業が行われ、水産資源保護法に基づく保護水面である歌別川本支流の大部分が含まれており、土地改変に伴う濁水や土砂の流入などによる影響が懸念される。このため、適切な方法により調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ濁水等の防止措置を講ずることなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

(3) 動物

ア 事業実施想定区域は、鳥類への影響を考慮すべき区域を示した「風力発電立地検討のためのセンシティブティマップ」において、シマフクロウなどの分布情報により注意喚起レベル A3 及び B のメッシュに含まれ、特に重点的な調査が必要とされている。また、事業実施想定区域及びその周辺では、専門家ヒアリングにおいてタンチョウ、オジロワシ、コウモリ類などの希少な動物の生息やガン類の渡りに関する情報も得られている。このため、関係機関や専門家等からの助言を得ながら、これら希少な動物の移動経路、生息状況等に関する詳細な調査を行うこと。その上で、バードストライクやバットストライク、生息環境の変化などの影響について適切な方法により予測及び評価を実施し、その結果を風車配置等の検討に反映することなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

イ 動物相については、専門家等からの助言を得ながら的確に把握するとともに、重要な動物種について、適切な方法により予測及び評価を実施し、生息地の改変を避けることなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

(4) 植物及び生態系

ア 事業実施想定区域には、ハルニレ群落など自然度の高い植生、特定植物群落のえりも岬ヒダカミツバツツジ群落、保安林といった重要な自然環境のまとまりの場が存在していることから、風車や搬入路の設置に伴う土地改変箇所の検討に当たっては、それらの範囲を避けることなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

イ 専門家ヒアリングにおいて事業実施想定区域及びその周辺における希少な植物種の生育に関する情報が得られたことも踏まえ、専門家等からの助言を得ながら植物相を的確に把握するとともに、重要な植物種について、適切な方法により予測及び評価を実施し、生育地の改変を避けることなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

ウ 生態系については、専門家等からの助言を得ながら、上位性注目種や典型性注目種等について、事業実施想定区域周辺の生態系を特徴づける適切な種を選定した上で調査、予測及び評価を実施し、注目種の好適な生息地又は生育地の改変を避けることなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

(5) 景観

事業実施想定区域は、様々な景観資源を有する日高山脈襟裳国定公園に隣接しており、風車の設置により公園内外からの眺望景観に重大な影響を及ぼすおそれがある。また、主要な眺望点である「東洋地区」や「百人浜」などからは、風車の垂直見込角が大きくなると予測され、眺望景観に重大な影響を及ぼすおそれがある。このため、こうした景観への影響について適切な方法により調査、予測及び評価を実施し、その結果を風車の配置検討に反映することなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。